

1 相談体制

開所時間	8時30分～17時15分
相談受付	対面、電話、メール
人員体制	センター長：1名 事務員兼相談員：1名 相談支援員：2名 相談支援員(出向)：7名 介護支援専門員(出向)：10名 事務員(出向)：1名

2 相談受付

(1) 相談内容

福祉分野（高齢・障がい・こども・困窮等）に関わる相談のほか、生活に関わることや、他課での対応のことなど、多岐にわたる。

大項目

項目	件数	項目	件数
高齢	16	ゴミ	4
住居	15	身体	4
金銭	15	虐待・DV	3
生活困窮	14	こども	3
障がい	12	病院、入退院	3
うつ	10	コロナ	3
ひきこもり・不登校	9	ギャンブル	3
家族	9	相談	3
介護	6	生活保護	2

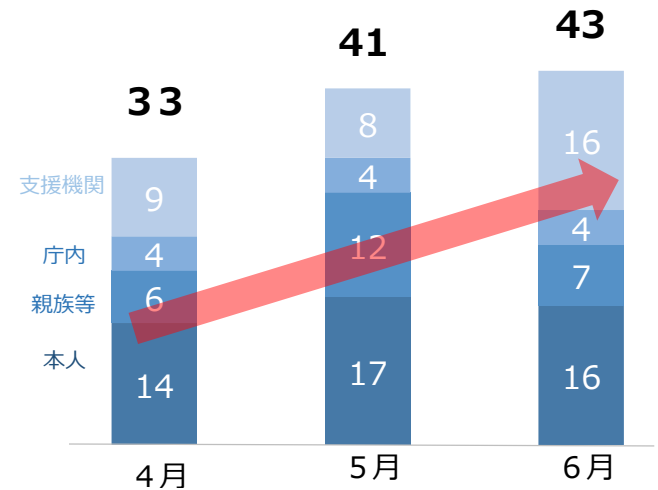
小項目 (一部抜粋)

(左記に含まれないもの)

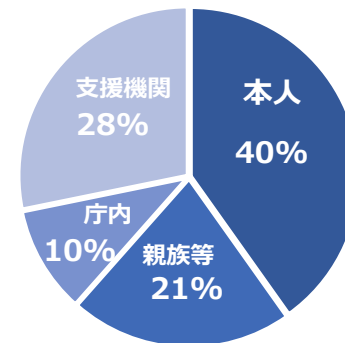
項目
居場所
県外
保証人
Iターン
側溝
仕事のストレス
県外
ペットの世話
修繕

(2) 相談件数 相談者経路

相談件数 **117件**



相談者経路



本人や親族等という「市民」が約60%と最多。
また、「支援機関」が約30%と当センターの存在は認知されている模様。

3 事例紹介

(1) 内容と経緯

センターにつながれたきっかけは「自治会長」



4月のセンター開所に併せて、3月から各公民館長や自治会長、民生委員等に当センターの広報を順次実施。A地区の自治会長総会に広報した数日後、同地区の自治会長から相談があった。

① 支援対象者の状況と自治会長の関わり

支援対象者 Bさん(49歳)

外国籍。日本語が通じにくい。約10年前離婚し、長男(21歳)と公営住宅に転入の2人世帯。長男が過去不登校が続く。

自治会長

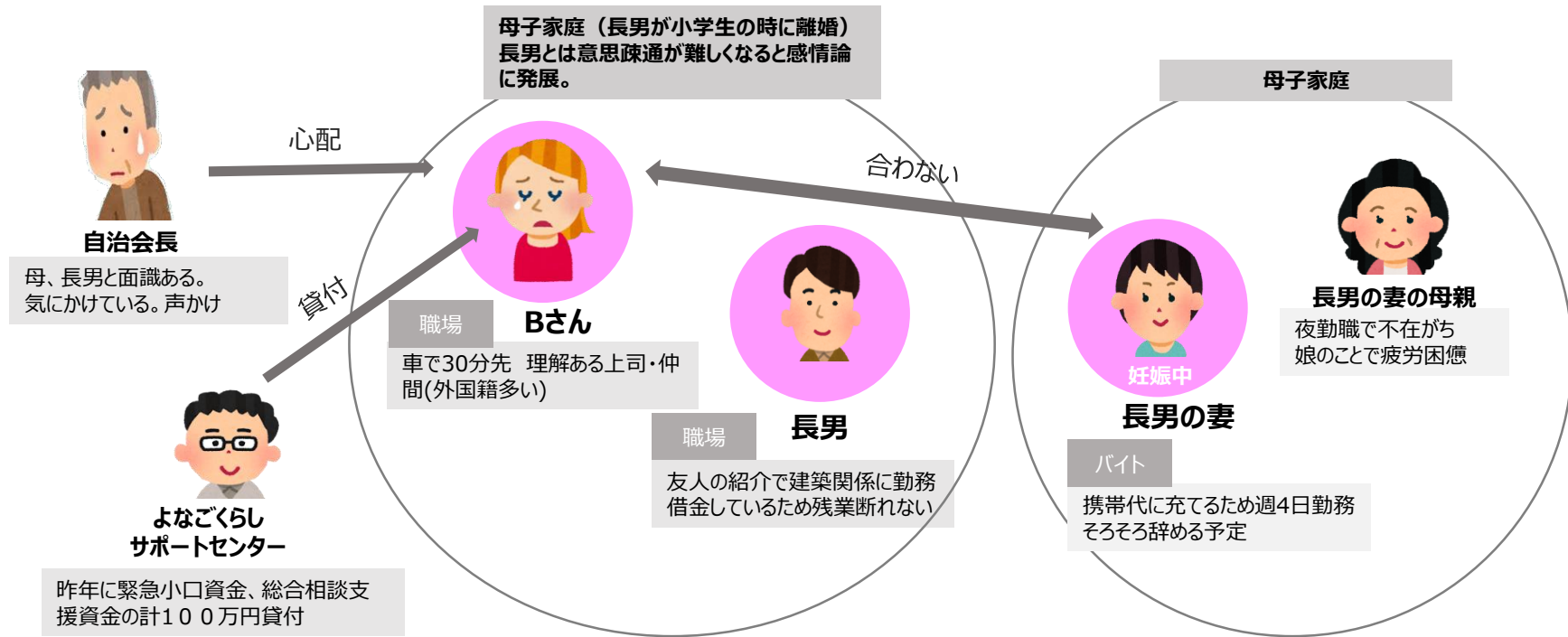
上記のことからこのBさんが気になっていたため、定期的に声かけ。長男が高校卒業後に就職したと聞き、内心ほっとしていた。

② センターへ

数日前に、Bさんから

『息子が400万の借金を抱えている。その上息子のガールフレンド（18歳）が妊娠したらしい。どうしよう。』と相談を受けたため、センターに相談。

(2) 現況



Bさん世帯の様子

Bさん (49歳)



- ・パート勤務。収入が不安定。
- ・借金あり。
- ・日本語が話せる長男に頼っているが、衝突多い。
- ・長男が在学中はよく女性相談員に相談していた。
- ・長男の中古車購入時の連帯保証人に説明理解せずに署名。日本語が読めない。
- ・長男の妻の態度に不満。育児の協力を拒否。

長男 (21歳)



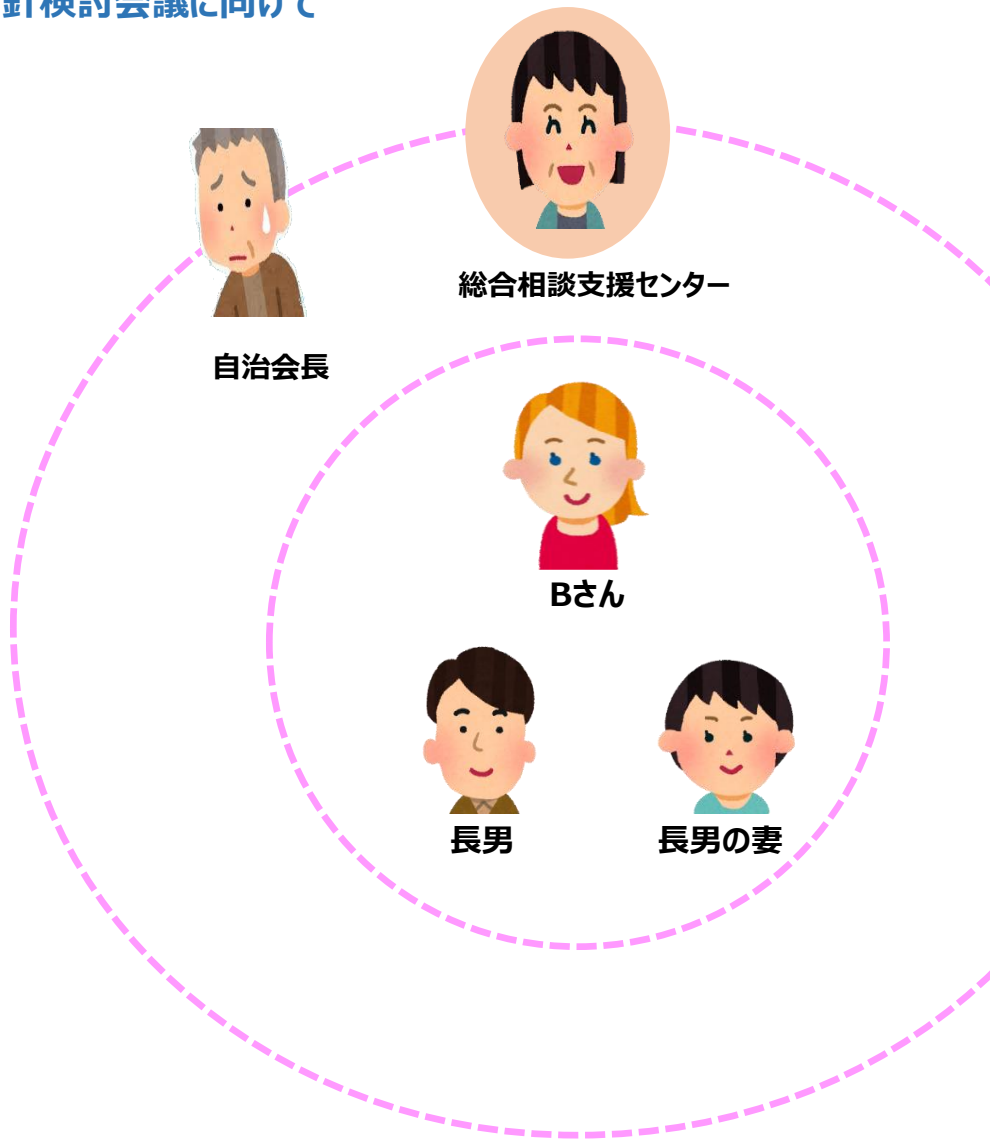
- ・外国籍の母という理由でいじめられ、不登校。高校卒業後は職を転々をしている。直近は県外でパート就労。
- ・妻とは2年前から交際。妊娠を機に結婚、母を頼って帰省。
- ・車は友人の紹介であまり理解せずに契約。
- ・借金あり。
- ・母への暴言あり。

長男の妻 (18歳)



- ・母子家庭で育つ。
- ・15歳から家出を繰り返す。
- ・高校中退。
- ・自傷行為あり。
- ・長男と交際してからは、長男と過ごしていた。
- ・妊娠を機に結婚。Bさんと合わず、現在も実家暮らし。
- ・出産予定は8月。
- ・現在アルバイトで就労中。

(3) 支援方針検討会議に向けて



総合相談支援センターの動き

Bさんにセンターを説明し、支援の同意を得る。(かなと英語表記の申請書)

- Bさんの訴え
 - ・長男の借金を解決したい
- 長男の訴え
 - ・二人で暮らしたいが、お金がない
 - ・出産はどこでするか決めていない
 - ・妻との面談を打診すると「妻は不安定で市外の実家にいる ため、面談は難しい」



複合的な課題があり、重層的支援会議に諮るケースと判断

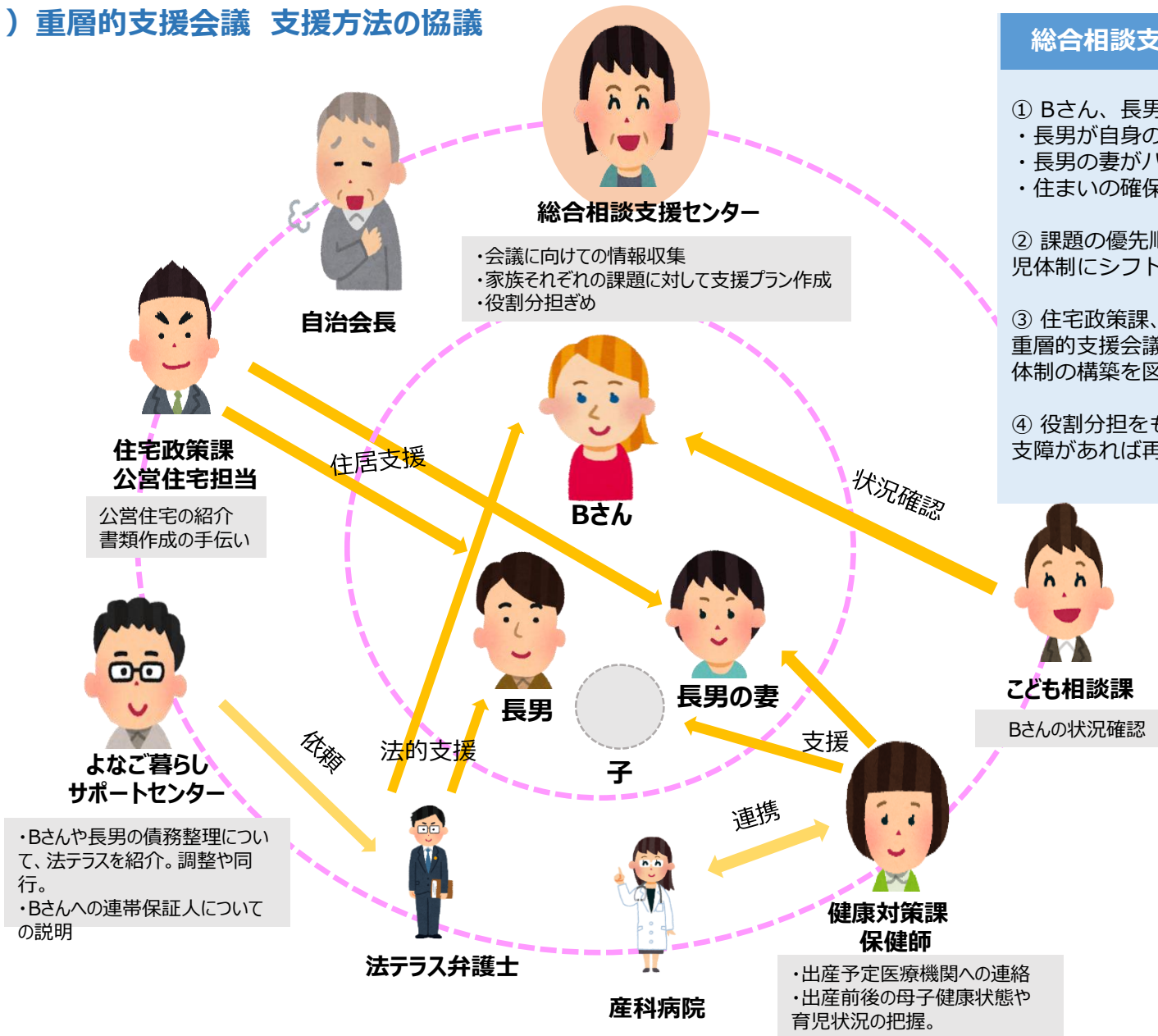
主な課題

- 出産・育児の支援体制
- 長男と長男の妻が暮らせる体制
- Bさん・長男の債務



重層的支援会議に向けて情報収集

(4) 重層的支援会議 支援方法の協議



総合相談支援センターの動き (まとめ)

- ① Bさん、長男の課題整理のため面談開始
 - ・長男が自身の債務や妻の出産に関心が低い
 - ・長男の妻がハイリスク妊婦だが情報不明
 - ・住まいの確保が必要
- ② 課題の優先順位を長男と長男の妻の出産育児体制にシフト
- ③ 住宅政策課、健康対策課と連携するため、重層的支援会議を開催。米子に転入前から出産体制の構築を図る。
- ④ 役割分担をもとに、各課の進捗状況伺い。支障があれば再度協議の場を設ける。